

# 食品安全情報（微生物） No.19 / 2026（2026.09.16）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

## 目次

### 【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. ブロッコリースプラウトに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Bovismorbificans*）感染アウトブレイク（2026年9月9日付初発情報）
2. 冷凍ブルーベリーに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O145 感染アウトブレイク（2026年9月3日付更新情報）
3. 小規模飼育の家禽類に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Altona、*S. Enteritidis*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイク（2026年8月27日付更新情報）

### 【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

### 【[英国保健安全保障局（UK HSA）](#)】

1. 英国で発生しているサルモネラ（*Salmonella Enteritidis*）感染アウトブレイク（2026年9月3日付更新情報、8月27日付初発情報）

### 【[オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）](#)】

1. 欧州連合サルモネラリファレンス検査機関（EURL-*Salmonella*）の2024年の精度管理試験：一次生産段階および食品由来スワブ検体からのサルモネラ検出に関する検査機関比較調査

## 【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<https://www.cdc.gov/>

### 1. ブロッコリースプラウトに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Bovismorbificans) 感染アウトブレイク (2026 年 9 月 9 日付初発情報)

*Salmonella* Outbreak Linked to Broccoli Sprouts

Sept. 9, 2026

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/broccoli-sprouts-09-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/broccoli-sprouts-09-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/broccoli-sprouts-09-26/locations.html>

(Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/broccoli-sprouts-09-26/timeline.html>

(Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Bovismorbificans) 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、Evergreen Fresh Sprouts 社が生産したブロッコリースプラウトが *S. Bovismorbificans* に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

#### ○ 疫学データ

#### ● 報告患者

2026 年 9 月 9 日時点で、*S. Bovismorbificans* アウトブレイク株感染患者が 4 州から計 22 人報告されている (図 1)。患者の発症日は 2026 年 7 月 7 日～8 月 26 日である (図 2)。情報が得られた全患者 22 人のうち 2 人 (9%) が入院した。死亡者は報告されていない。

図 1：サルモネラ (*Salmonella Bovismorbificans*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数  
(2026 年 9 月 9 日時点の計 22 人)

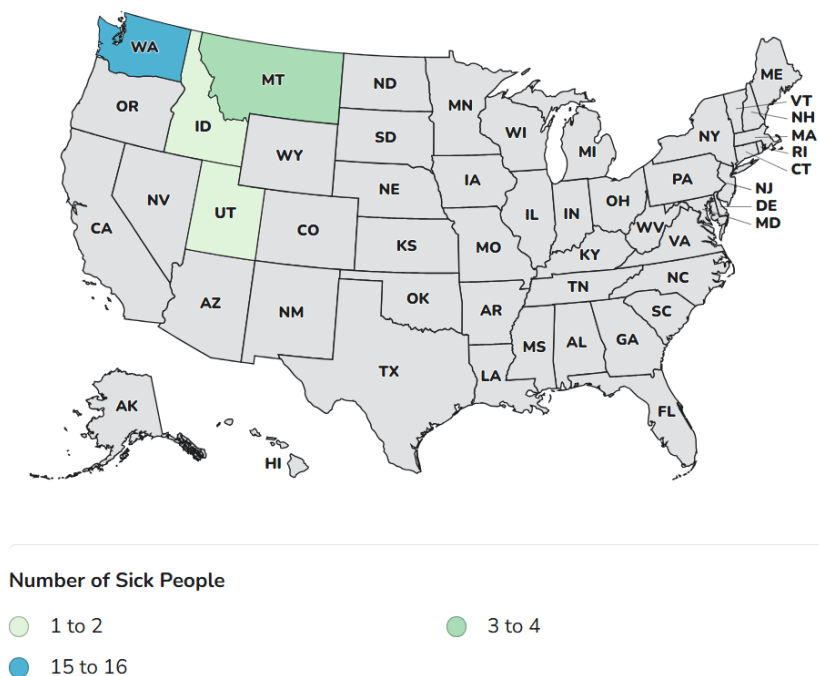
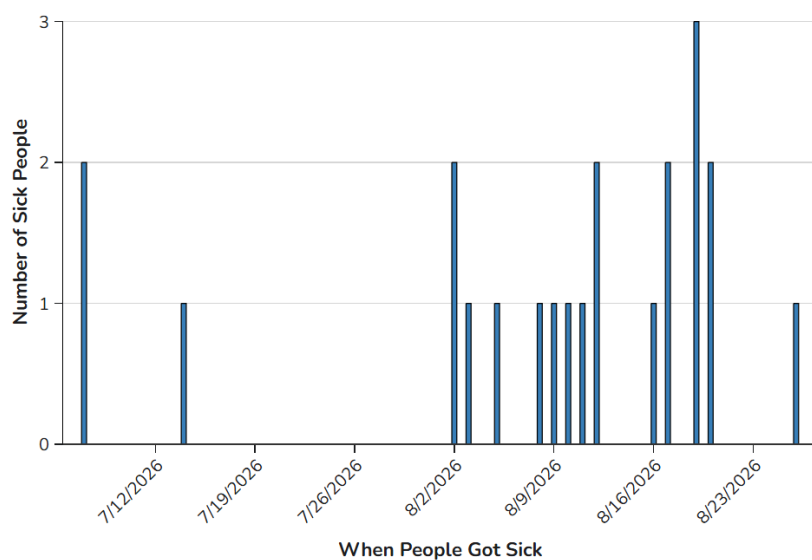


図 2：サルモネラ (*Salmonella Bovismorbificans*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数  
(2026 年 9 月 9 日時点の計 22 人)



(報告患者がアウトブレイクの一部であるかどうかを判定するまでに 3~4 週間を要するため、新しい報告患者についてはまだデータに含まれていない可能性がある)

## ● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 年齢（n=22） | 年齢範囲：2～87 歳<br>年齢中央値：48 歳  |
| 性別（n=22） | 45%：女性<br>55%：男性           |
| 人種（n=11） | 91%：白人<br>9%：アジア系          |
| 民族（n=17） | 94%：非ヒスパニック系<br>6%：ヒスパニック系 |

## ● 食品への曝露

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 19 人全員（100%）がスプラウトの喫食を報告し、このうち 17 人（89%）が具体的にブロッコリースプラウトの喫食を報告した。

この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）において、回答者の 8.7%が調査実施日前 1 週間に何らかのスプラウト（アルファルファ、豆、クローバーなど）を喫食したと報告した結果と比較して有意に高い。この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者がブロッコリースプラウトの喫食によって感染したことを示唆している。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

## ○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

WGS 解析の結果、患者由来 18 検体から分離されたサルモネラ株について抗生物質耐性の存在が予測されなかった。患者由来 1 検体から分離されたサルモネラ株では、ストレプト

トマイシン、スルフイソキサゾールおよびテトラサイクリンへの耐性が予測された。サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。また、抗生物質が必要になった場合でも、この耐性が大多数の患者の治療に使用される抗生物質の選択に影響を及ぼす可能性は低い。抗生物質耐性に関する詳細情報は、以下の CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/about/index.html>

モンタナ州当局は、患者 1 人の自宅から未開封のブロッコリースプラウトの 1 パックの検体を採取した。分離されたサルモネラ株について WGS 解析を実施したところ、本アウトブレイクの患者由来 *S. Bovismorbificans* 株と一致した。

FDA および関連各州による追跡調査で得られた情報から、Evergreen Fresh Sprouts 社が生産したブロッコリースプラウトが本アウトブレイクの感染源として特定された。本アウトブレイクの汚染源の特定、および汚染食品が他にもあるかどうかの確認のため、FDA による調査は継続している。

#### ○ 公衆衛生上の措置

CDC は、回収対象の Evergreen Fresh Sprouts 社が生産したブロッコリースプラウト（以下 Web ページ参照）を喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/evergreen-fresh-sprouts-llc-recalls-broccoli-sprouts-because-possible-health-risk>

## 2. 冷凍ブルーベリーに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 O145 感染アウトブレイク（2026 年 9 月 3 日付更新情報）

*E. coli* Outbreak Linked to Frozen Blueberries

Sept. 3, 2026

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/blueberries-07-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/blueberries-07-26/investigation.html> (Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/blueberries-07-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/blueberries-07-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生している大腸菌 O145 感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、Frutas y Hortalizas del Sur 社が供給した冷凍有機ブルーベリーが大腸菌 O145 に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっている可能性があることを示している。

○ 疫学データ

● 報告患者

2026 年 9 月 3 日時点で、大腸菌 O145 アウトブレイク株感染患者が 2 州から計 17 人報告されている（図 1）。患者の発症日は 2026 年 5 月 11 日～8 月 2 日である。情報が得られた患者 17 人のうち 6 人（35%）が入院し、死亡者は報告されていない。

図 1：大腸菌 O145 感染アウトブレイクの居住州別患者数（2026 年 9 月 3 日時点の計 17 人）

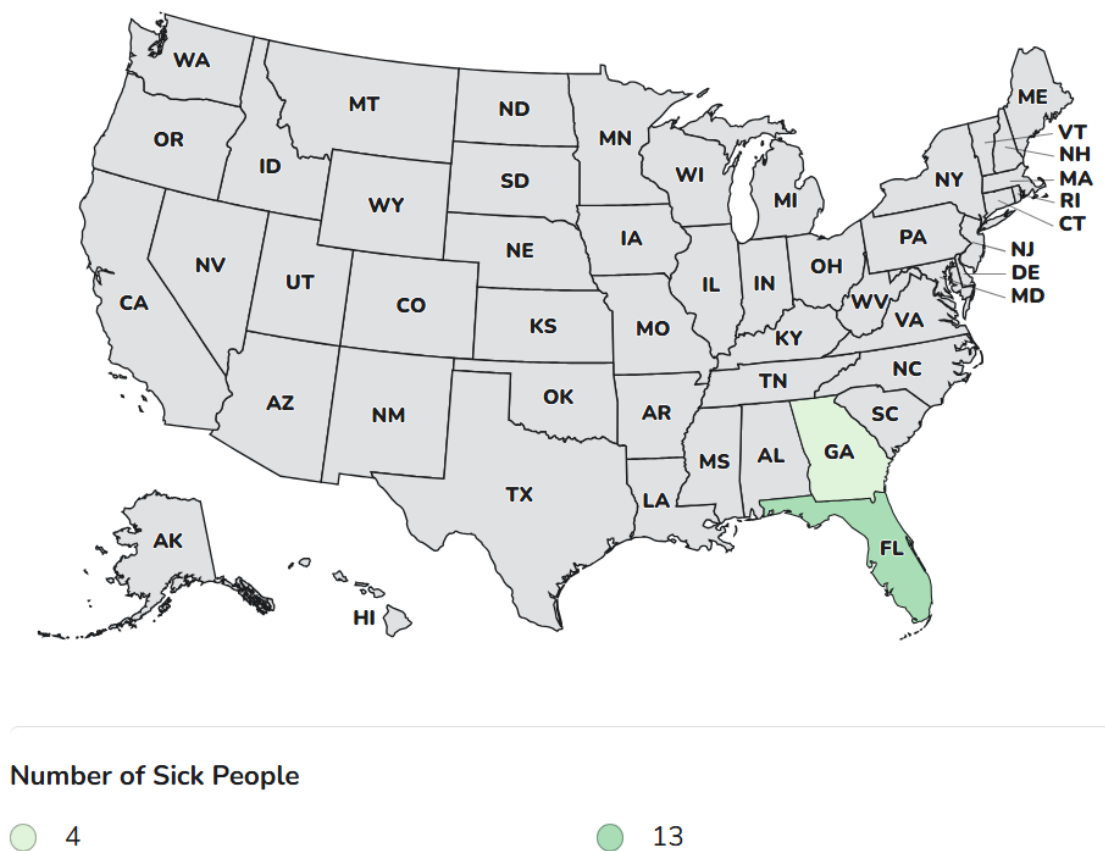
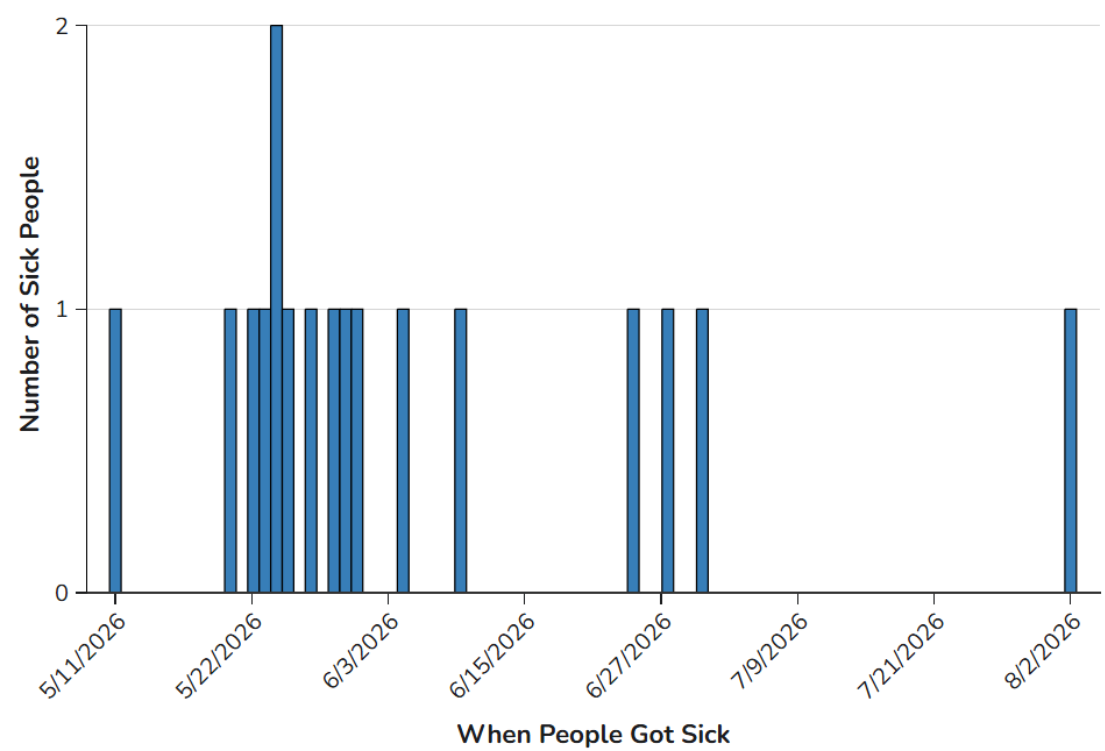


図 2：大腸菌 O145 感染アウトブレイクの発症日別患者数（2026 年 9 月 3 日時点の計 17 人）



● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 年齢（n=17） | 年齢範囲：2～88 歳<br>年齢中央値：47 歳   |
| 性別（n=17） | 41%：女性<br>59%：男性            |
| 人種（n=16） | 100%：白人                     |
| 民族（n=17） | 88%：非ヒスパニック系<br>12%：ヒスパニック系 |

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 13 人のうち 11 人（85%）が冷凍ブルーベリー

一の喫食を報告した。この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）において、回答者の 24%が調査実施日前 1 週間に冷凍のベリー類を喫食したと報告した結果と比較して有意に高かった。

<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者が冷凍ブルーベリーの喫食によって感染したことを示唆している。

#### ○ 追跡調査によるデータ

FDA は追跡調査を実施し、冷凍有機ブルーベリーの供給元として Frutas y Hortalizas del Sur 社を特定した。

#### ○ 公衆衛生上の措置

2026 年 9 月 2 日、Frutas y Hortalizas del Sur 社は冷凍ブルーベリーの回収対象を拡大した（以下 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/frutas-y-hortalizas-del-sur-sa-expands-recall-include-one-lot-great-value-frozen-organic-triple>

2026 年 7 月 29 日、Publix 社は回収対象となる冷凍ブルーベリー製品のロットを追加し、また当該ブルーベリーが含まれるミックスベリー製品も対象に追加した（以下 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/publix-recalls-all-lots-greenwise-organic-frozen-blueberries-and-whole-mixed-berries-due-potential-e>

2026 年 7 月 3 日、Frutas y Hortalizas del Sur 社（チリ San Carlos）は GreenWise ブランドの冷凍有機ブルーベリーの回収を開始した（以下 Web ページ参照）。Publix 社は当該ブルーベリーの販売を停止した。CDC は、回収対象のブルーベリーを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/frutas-y-hortalizas-del-sur-sa-initiates-recall-frozen-greenwise-organic-igf-blueberries-due>

（食品安全情報（微生物）No.15 / 2026（2026.07.22）US CDC 記事参照）

### 3. 小規模飼育の家禽類に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella* Altona、*S. Enteritidis*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*）感染アウトブレイク（2026 年 8 月 27 日付更新情報）

*Salmonella* Outbreaks Linked to Backyard Poultry

Aug. 27, 2026

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/saintpaul-04-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC) および複数州の公衆衛生当局は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Altona、*S. Enteritidis*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

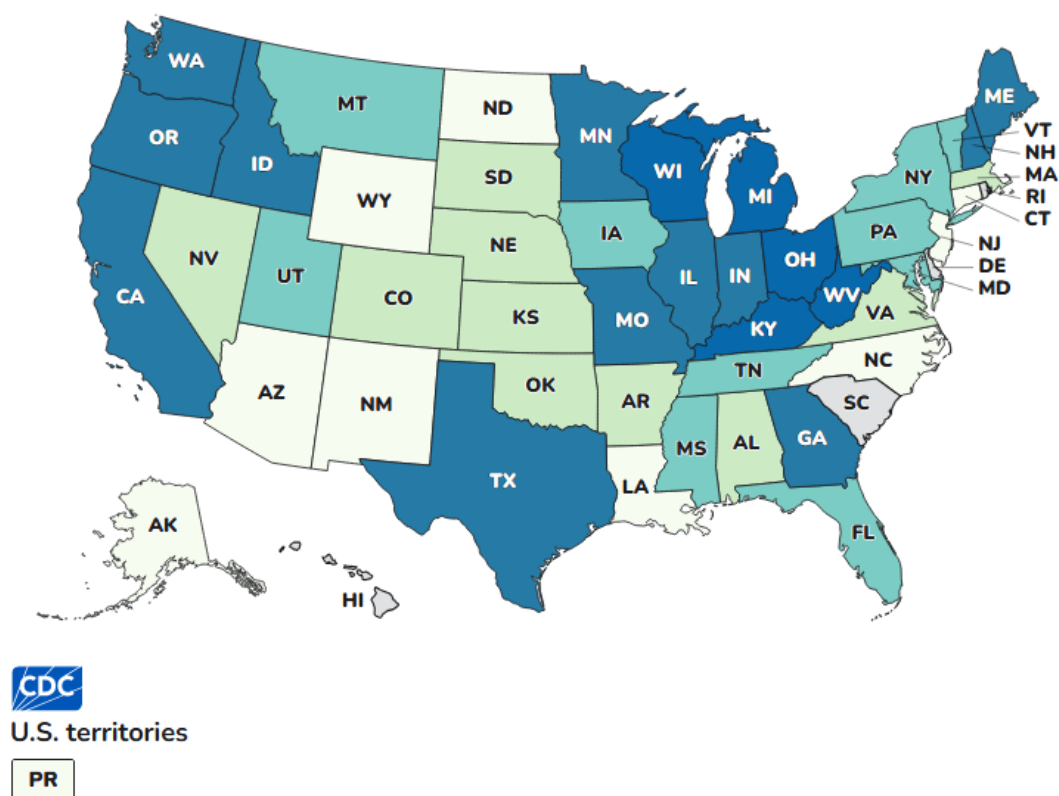
疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、本アウトブレイクの患者が小規模飼育の家禽類との接触により感染したことを示している。

○ 疫学データ

● 報告患者

2026 年 7 月 27 日付更新情報以降に、新たに報告患者計 247 人、および原因血清型として *S. Altona* が調査対象に追加された。2026 年 8 月 27 日時点で、サルモネラ (*Salmonella* Altona、*S. Enteritidis*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) アウトブレイク株のいずれかに感染した患者が 46 州およびプエルトリコから計 1,061 人報告されている (図 1)。患者の発症日は 2026 年 1 月 20 日～8 月 6 日である (図 2)。情報が得られた患者 717 人のうち 234 人 (33%) が入院した。ジョージア州およびワシントン州から死亡者が 1 人ずつ報告されている。

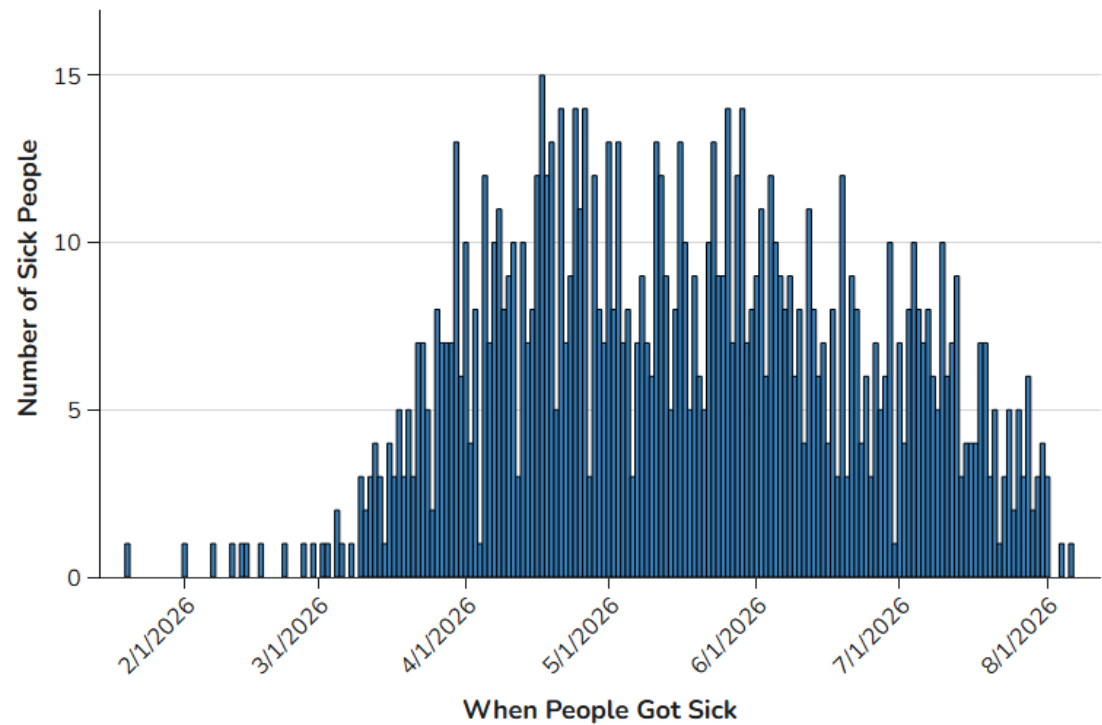
図 1: サルモネラ (*Salmonella* Altona, *S. Enteritidis*, *S. Indiana*, *S. Infantis*, *S. Kedougou*, *S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2026 年 8 月 27 日時点の計 1,061 人)



#### Number of Sick People



図 2: サルモネラ (*Salmonella* Altona、*S. Enteritidis*、*S. Indiana*、*S. Infantis*、*S. Kedougou*、*S. Mbandaka* および *S. Saintpaul*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026 年 8 月 27 日時点の計 1,061 人)



● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に接触した動物など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

|              |                                                    |
|--------------|----------------------------------------------------|
| 年齢 (n=1,059) | 年齢範囲：1 歳未満～99 歳<br>年齢中央値：35 歳<br>5 歳未満：23%         |
| 性別 (n=1,052) | 56%：女性<br>44%：男性                                   |
| 人種 (n=688)   | 94%：白人<br>2%：黒人<br>1%：アジア系<br>1%：アメリカ先住民またはアラスカ先住民 |

|           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
|           | 1%：ハワイ先住民またはその他の太平洋諸島の住民<br>1%：複数の人種 |
| 民族（n=690） | 88%：非ヒスパニック系<br>12%：ヒスパニック系          |

#### ● 動物との接触に関する調査

州・地域の公衆衛生当局は、本アウトブレイクの患者が発症前 1 週間に接触した動物に関する聞き取り調査を行っている。

- ・ 聞き取りが実施された患者 738 人のうち、553 人（75%）が小規模飼育の家禽類との接触を報告した。
- ・ *S. Saintpaul* 以外の血清型によるアウトブレイク患者のほとんどがニワトリの雛および成鶏との接触を報告していたのに対し、*S. Saintpaul* によるアウトブレイク患者はアヒル（特にペキン種のアヒル）の雛および成鳥との接触をより多く報告していた。
  - ー 接触した家禽の種類を報告した *S. Saintpaul* 感染患者 242 人のうち、195 人（81%）がニワトリの雛または成鶏との接触を報告し、108 人（45%）がアヒルの雛または成鳥との接触を報告した。
  - ー アヒルの種類に関する情報が得られた患者 42 人のうち、32 人（76%）がペキン種のアヒルを報告した。

#### ○ 追跡調査によるデータ

家禽類の小規模飼育を行っていることを報告した患者 324 人のうち 267 人（82%）が、2026 年 1 月 1 日以降に家禽類を購入または入手していた。これらの患者は家禽類を様々な場所で入手していた。多くの患者は農業用品店で購入を報告したが、一部の患者は知人から購入するか、孵化場または地元の農場から直接購入していた。調査では、患者が家禽類を入手した場所、および患者が家禽類を購入した小売店に家禽類を供給した孵化場について、情報の収集が続けられている。

注記：上記 7 種類のサルモネラアウトブレイク株は 7 カ所の孵化場に関連している。CDC は関連各州の当局と協力してこれらの孵化場にこの結果を通知している。調査は継続しているため、本アウトブレイクに関連した別の孵化場が新たに特定される可能性がある。

#### ○ 検査機関での検査データ

アイダホ、ミシガン、ミネソタ、オハイオ、オレゴンおよびテネシーの各州で実施された調査において、小規模飼育の家禽類由来検体、および孵化場から小売店への生きた家禽類の出荷時に使用された輸送箱内部由来検体（中敷き、敷き藁など）が採取された。全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析が行われた結果、これらの検体から検出された *S. Enteritidis*、

*S. Mbandaka*、*S. Kedougou* および *S. Saintpaul* 株が患者由来検体から分離された株と同一であることが示された。

#### ● 薬剤耐性

患者由来 1,056 検体、家禽由来 12 検体および環境由来 30 検体から分離されたサルモネラ株に関する WGS 解析の結果、本アウトブレイクに関連したサルモネラ株の一部がアンピシリンまたはセフトリアキソンへの耐性、あるいはシプロフロキサシンへの非感受性 (NSC) を示した。これらの抗生物質は、重度のサルモネラ症患者の治療において一般的に推奨されているものである。一般的に、遺伝学的に近縁なサルモネラ株は、類似の薬剤耐性パターンを示す傾向がみられる。

サルモネラ症患者の多くは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、本アウトブレイクの患者については推奨される抗生物質による治療が困難になる場合があり、別の抗生物質の選択が必要になることがある。可能であれば、医療従事者は治療方針を決定するために抗生物質感受性試験 (AST) を実施すべきである。薬剤耐性またはサルモネラ症の合併症の患者に関しては、感染症専門医に相談することを検討すべきである。

一部の検体からのサルモネラ分離株は抗生物質であるホスホマイシンへの耐性を示した。ホスホマイシンはサルモネラが原因となる下痢症の治療において一般的に推奨される抗生物質ではないが、尿路感染症の治療で処方される可能性がある。ホスホマイシン耐性が予測された株に感染していた患者の約 11% が尿路感染症を発症していた。この耐性により、少数の尿路感染症に罹患した患者において治療の選択肢が限定される可能性がある。

#### ● 耐性に関する詳細

WGS 解析の結果、本アウトブレイクに関連したサルモネラ株については以下の抗生物質耐性の存在が予測された：ホスホマイシン (595 検体)、テトラサイクリン (130)、ナリジクス酸 (132)、ストレプトマイシン (46)、ゲンタマイシン (34)、スルフイソキサゾール (21)、クロラムフェニコール (12)、アンピシリン (7)、セフトリアキソン (5)、セフトリオフル (5)、アモキシシリン／クラブラン酸 (4) およびセフォキシチン (4)。

133 検体由来分離株についてはシプロフロキサシンへの非感受性も予測された。344 検体由来分離株については抗生物質耐性の存在が予測されなかった。

(食品安全情報 (微生物) No.16/2026 (2026.08.05)、No.14/2026 (2026.07.08)、No.11/2026 (2026.05.27)、No.9/2026 (2026.04.28) US CDC 記事参照)

- 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

[https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety\\_en](https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en)

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

[https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff\\_en](https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en)

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2026 年 8 月 25 日～9 月 4 日の主な通知内容

#### 警報通知 (Alert Notification)

フランス産冷蔵エビ (加熱済み) のリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産タラマ (魚卵ディップ) のリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産・ベルギー産牛肉のサルモネラ、デンマーク産スモークトラウトのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産グリーンバジルペストソースのボツリヌス菌、フランス産二枚貝の大腸菌、ポーランド産冷凍家禽肉ケバブのサルモネラ属菌、スウェーデン産 RTE 食品のリステリア (*L. monocytogenes*)、フランス産カボチャ種子のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、イタリア産の生乳チーズの志賀毒素産生性大腸菌、フランス産有機ブルーチーズのリステリア、リトアニア産加熱済み鶏肉製品 (薄切り) のリステリア (*L. monocytogenes*)、トルコ産 (ブルガリア経由) ヘーゼルナッツペーストのサルモネラ属菌、イタリア産スイートゴルゴンゾーラのリステリア (*L. monocytogenes*)、キプロス産ハルミー (チーズ) のリステリア (*L. monocytogenes*) など。

#### 注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

ドイツ産牛ひき肉の志賀毒素産生性大腸菌 (O145:H28)、ポーランド産鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ルーマニア産冷蔵家禽肉のサルモネラ属菌、ベルギー産鶏肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ポーランド産鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、シリア産スパイスミックスのサルモネラ (*S. Give*)、ポーランド産鶏もも肉 (骨・皮なし) のサルモネラ

(*S. Infantis*, 5/5 検体陽性)、アイルランド産水牛チーズ(モッツァレラ、ボッコンチーニ)のリステリア (*L. monocytogenes*)、米国産冷凍アラスカスケトウダラのアニサキス属、ポーランド産冷蔵鶏むね肉のサルモネラ属菌 (C 群)、ルーマニア産鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, *S. Infantis*)、デンマーク産有機ベビーキャロットの志賀毒素産生性大腸菌、ポーランド産冷蔵鶏むね肉カツレツのサルモネラ (*S. Enteritidis*)、リトアニア産の生鮮鶏肉ソーセージ(ハーブ入り)のサルモネラ (*S. Infantis* (2/5 検体陽性)、*S. Newport* (1/5 検体陽性))、イタリア産七面鳥むね肉のサルモネラ属菌、ドイツ産・ポーランド産家禽肉(皮付き)のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性) など。

#### フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

ルーマニア産冷凍鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ブラジル産冷凍鶏むね肉のサルモネラ属菌など。

#### 通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産家禽肉製品のサルモネラ属菌、英国産加工動物タンパク質(家禽ミール)のサルモネラ、ブラジル産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉(半身)のサルモネラ属菌、ブラジル産冷凍鶏むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、スリランカ産乾燥ナツメグ(ホール)の昆虫死骸とカビ、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体陽性)、パラグアイ産イヌ用餌のサルモネラ (*S. Newlands*)、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ属菌など。

---

#### ● 英国保健安全保障局 (UK HSA: UK Health Security Agency)

<https://www.gov.uk/government/organisations/uk-health-security-agency>

英国で発生しているサルモネラ (*Salmonella* Enteritidis) 感染アウトブレイク (2026 年 9 月 3 日付更新情報、8 月 27 日付初発情報)

*Salmonella* outbreak update

3 September & 27 August 2026

<https://www.gov.uk/government/news/salmonella-outbreak-update>

#### 2026 年 9 月 3 日付更新情報

英国保健安全保障局 (UK HSA) は、英国食品基準庁 (UK FSA) およびその他の公衆衛生機関と協力して、英国で発生している *Salmonella* Enteritidis の 3 つのクラスター

(t5.9411、t5.9765 および t0.24068) の調査を継続しており、エビデンスからこれらのクラスターは輸入卵との関連の可能性が示唆されている。

英国におけるこれら 3 つのアウトブレイクに関する最新情報は、毎週発表されている（以下 Web ページ参照）。

[https://www.gov.uk/government/publications/salmonella-statistical-releases?utm\\_medium=email&utm\\_campaign=govuk-notifications-topic&utm\\_source=9bb67224-e117-4951-a77fc336e6bbc02e&utm\\_content=immediately](https://www.gov.uk/government/publications/salmonella-statistical-releases?utm_medium=email&utm_campaign=govuk-notifications-topic&utm_source=9bb67224-e117-4951-a77fc336e6bbc02e&utm_content=immediately)

2026 年 9 月 1 日時点における概要は以下の通りである。

- ・ イングランドにおいて t5.9411 クラスターの確定患者計 305 人および死亡者 1 人が確認されており、検体採取日は 2025 年 8 月 11 日～2026 年 8 月 21 日である。
- ・ イングランドにおいて t0.24068 クラスターの確定患者計 182 人が確認されており、死亡者は報告されていない。検体採取日は 2025 年 5 月 27 日～2026 年 8 月 15 日である。
- ・ イングランドにおいて t5.9765 クラスターの確定患者計 41 人および死亡者 1 人が確認されている。検体採取日は 2026 年 1 月 27 日～8 月 11 日である。

患者は依然として小規模のカフェ、レストラン、持ち帰り料理店などの様々な店舗での喫食に関連している。

一般市民に対するサルモネラリスクは依然として低い。

#### 2026 年 8 月 27 日付初発情報

英国保健安全保障局（UK HSA）は、英国食品基準庁（UK FSA）およびその他の公衆衛生機関と共に、英国で発生している *Salmonella* Enteritidis (t5.9411) 感染アウトブレイクの調査を継続している。

最新の調査結果から本アウトブレイクは英国に輸入された卵と関連している可能性が示唆されており、患者は小規模のカフェ、レストランおよび持ち帰り料理店などの外食に関連していた。

2026 年 8 月 25 日時点で、本クラスター (t5.9411) に関連して確定患者 259 人および死亡者 1 人が確認されている。これらの患者の検体採取日は 2025 年 8 月 11 日～2026 年 8 月 8 日である。

*S. Enteritidis* の最初のクラスターの調査開始以降、HSA はさらに 2 つの患者クラスター (t0.24068 および t5.9765) を確認した。これら 2 つの新たなクラスターは t5.9411 クラスターとは遺伝学的に異なっていたが、2026 年 6 月以降報告数が増加している *S. Enteritidis* に属している。これら 3 クラスターすべてにおいて、患者数が 2026 年 6 月以降増加している。新たなクラスターのうち 1 つについては 2025 年に最初の調査が実施された。これらのクラスター間の遺伝学的関連性および食品情報から、これらのアウトブレイクがいずれも輸入卵に関連している可能性が示唆されたため、3 クラスターの調査は並行して

実施されている。

2026 年 8 月 25 日時点で、英国において t5.9765 クラスターに関連する確定患者 38 人および死亡者 1 人が確認されており、検体採取日は 2026 年 1 月 27 日～7 月 29 日であった。

2026 年 8 月 25 日時点で、英国において t0.24068 クラスターに関連する確定患者 177 人が確認されており、死亡者は報告されていない。検体採取日は 2025 年 5 月 27 日～2026 年 8 月 5 日であった。

これら 3 つのアウトブレイクの最新情報は、今後、毎週更新される予定である（以下 Web ページ参照）。

[https://www.gov.uk/government/publications/salmonella-statistical-releases?utm\\_medium=email&utm\\_campaign=govuk-notifications-topic&utm\\_source=9bb67224-e117-4951-a77fc336e6bbc02e&utm\\_content=immediately](https://www.gov.uk/government/publications/salmonella-statistical-releases?utm_medium=email&utm_campaign=govuk-notifications-topic&utm_source=9bb67224-e117-4951-a77fc336e6bbc02e&utm_content=immediately)

一般市民に対するサルモネラのリスクは依然として低い。

サルモネラに感染した場合、大多数の患者は軽度または自然に回復する程度の症状を呈する。しかしながら、免疫機能が低下している人（乳幼児、高齢者、妊婦、免疫機能が低下した人）は、比較的重度の症状を呈する可能性がある。

FSA のガイダンス（以下 Web ページ参照）にもとづくと、高齢者、妊婦、乳幼児および免疫機能が低下している人は、「British Lion」マーク（以下 Web ページ参照）が添付されているか、「Laid in Britain」食品保証スキーム（以下 Web ページ参照）に従って生産された卵であれば、生または軽く加熱した鶏卵、およびそれらを含んだ食品を安全に喫食することが可能である。

<https://www.gov.uk/guidance/advice-on-safe-storage-handling-and-use-of-eggs-for-catering>（FSA ガイダンス）

<https://www.egginfo.co.uk/trade/foodservice/advice-caterers-handling-eggs>（British Lion マーク）

<https://www.laidinbritaineggs.co.uk/the-scheme/code-of-practice>（「Laid in Britain」食品保証スキーム）

---

● オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM: Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu）

<https://www.rivm.nl>

欧州連合サルモネラリファレンス検査機関（EURL-*Salmonella*）の 2024 年の精度管理試験：一次生産段階および食品由来スワブ検体からのサルモネラ検出に関する検査機関比較

## 調査

EURL-*Salmonella* combined Proficiency Test- Interlaboratory Study for Primary Production Stage and Food 2024. Detection of *Salmonella* in fabric swabs

05-03-2026

<https://www.rivm.nl/publicaties/eurl-salmonella-combined-proficiency-test-interlaboratory-study-for-primary-production>

1992 年以降、欧州連合 (EU) 加盟各国のリファレンス検査機関 (NRL: National Reference Laboratory) は毎年実施される精度管理試験 (Proficiency Test) に参加することが義務付けられている。この試験の目的は、家畜の飼育施設などの飼育環境、または食品および食品生産環境から採取された検体からサルモネラを検出することである。2024 年の試験では、EU 加盟国のほぼ全ての NRL がスワブ検体からサルモネラを検出する能力を有していた。例外の 1 NRL を除き、参加した全ての NRL が「高濃度 (high)」および「低濃度 (low)」のサルモネラを検出することができていた。

例外の 1 NRL は「低濃度 (low)」のスワブ 4 検体全てにおいてサルモネラを検出できなかったものの、「極めて低濃度 (extra-low)」の検体からはサルモネラを検出する能力を有していることを証明した。したがって、追加検体による再試験を実施する必要はなかった。2 NRL については、検体の送付所要時間が非常に長く (25 日間)、サルモネラが生存できなかったため、検査能力の評価は実施されなかった。以上が欧州連合サルモネラリファレンス検査機関 (EURL-*Salmonella*) により 2024 年 10 月に実施された精度管理試験の結果であった。

この精度管理試験に参加した NRL は EU 加盟 27 カ国、その他の欧州 13 カ国および欧州以外の 1 カ国などを含む計 68 NRL が参加した。各 NRL は、国際的に認められている必須の分析方法を使用してスワブ検体からサルモネラを検出した。各検査用パッケージには、「3 種類の異なる濃度のサルモネラ (*S. Typhimurium*) で人為的に汚染させた検体」または「全く汚染させていない検体」のいずれかが含まれていた。

この精度管理試験は、オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM) 内にある EURL-*Salmonella* が主催した。欧州における NRL のサルモネラ検査能力を把握することは、EURL-*Salmonella* の重要任務の 1 つである。

(食品安全情報 (微生物) No.9 / 2024 (2024.05.01)、No.5 / 2022 (2022.03.02)、No.13 / 2020 (2020.06.24)、No.3 / 2020 (2020.02.05)、No.25 / 2019 (2019.12.11)、No.24 / 2019 (2019.11.27)、No.10 / 2016 (2016.05.11)、No.2 / 2015 (2015.01.21)、No.24 / 2012 (2012.11.28)、No.11 / 2012 (2012.05.30)、No.24 / 2010 (2010.11.17)、No.21 / 2006 (2006.10.11)、No.16 / 2006 (2006.08.02) RIVM 記事参照)

---

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室